

### 【国語】

- ◆試験時間は50分
  - ◆傾向・設問形式は昨年と同じ
  - ◆説明的文章と物語的文章（あわせて8000字程度）
  - ◆100字以下の記述問題を2問程度（配点高い。部分点あり。必ず挑戦を！）  
トメ・ハネは見ない 誤字・脱字は減点
  - ◆言い換え・原因理由・空欄補充
  - ◆漢字は本文より読みと書きを問題「美しさ」より「丁寧さ」  
本文より独立した選択肢の設問を出題
- ### 【ワンポイント・アドバイス】
- ◆50分間の使い方 時間配分が大切 どの問題から始めるか？
  - ◆記述、選択肢問題に対する解法の確立が大切  
本文中から答えとなる文を発見しよう  
記述すべき事柄は必ず3つ程度ある  
選択肢を分割して考えてみよう
  - ◆設問傾向はオーソドックスな出題 平成17年以降の過去問が大切

### 【算数】

- ◆試験時間は50分
  - ◆大問6題
  - ◆計算問題
  - ◆図形やグラフをフリーハンドでかく問題 線は太く丁寧に書く
  - ◆立体図形に関する問題
  - ◆読解力が試される問題
  - ◆コンパス・定規・分度器は必要ありません
- ### 【ワンポイント・アドバイス】
- ◆計算力→毎日計算練習をする
  - ◆典型問題をよく練習する
  - ◆すべての問題を見て、できそうな問題に取り組む
  - ◆仮分数はOK 割り切れないときは分数で答える
  - ◆過去の問題をしっかりと勉強しましょう

### 【社会】

- ◆試験時間は40分
  - ◆配点：第1問（30点）原始古代～近現代の歴史総合問題（政治史・外交史がテーマ）  
第2問（40点）近現代歴史と公民の融合問題（政治・憲法・財政がテーマ）  
第3問（30点）地理総合問題（地形図・統計資料がテーマ）
  - ◆記述問題も出題
- ### 【ワンポイント・アドバイス】 ◆問題数は約50問
- ◆「漢字で答えなさい」などの指示に従うこと
  - ◆記述問題をいくつか出題  
50～70字程度 部分点あり 設問の要求は何か、それに答える
  - ◆時事問題を気にするよりも苦手な分野の復習を！
  - ◆十分な知識とそれをいかして資料や表を読み取る練習

### 【理科】

- ◆試験時間は40分
- ◆全分野からの出題
- ◆大問7題、設問数30題前後  
→物理2 化学2 生物2 地学1  
力の問題 溶液の問題は必ず出題
- ◆基本的な単語は理解していることを前提としている
- ◆計算問題は必ず出題 小数で答え、割り切れない計算にも慣れておくこと
- ◆説明問題  
(長い文章での説明ではないので、簡潔に表現、的確にまとめる 部分点なし)

### 【ワンポイント・アドバイス】

- ◆平均点が60点になるように作成
- ◆計算を楽しみ、論理を楽しむ
- ◆過去問を研究する

### 【帰国生入試】

- ◆出願資格
  - ①2015年3月小学校を卒業見込の者もしくはこれに準ずる学校を卒業見込の者
  - ②12月帰国生入試  
日本の学齢で小学校入学から受験日までに、海外滞在期間が1年以上の者。  
もしくはこれに準ずる者。
- ◆第1回入試  
日本の学齢で小学3年生進級から受験日までに、海外滞在期間が1年以上の者。  
もしくはこれに準ずる者。
- ◆試験日程・科目  
12月帰国生入試 2016年12月10日(土)  
試験科目: 英語A・英語B  
国語(文法など日本語運用能力を問う)  
算数(第1回入試と同様の出題傾向 標準的な問題中心)
- ◆第1回入試 2017年 1月20日(金)  
試験科目 国語・算数・社会・理科  
\*国語・算数・理科・社会の問題は一般入試と同じ問題

### 【ワンポイント・アドバイス】

- ◆英語A(40分)  
長文読解問題2題: 英検2級程度
- ◆英語B(40分)  
英作文: スpell、文法ミスは減点対象 文章の整合性、論理展開をみる

### 【入試の変更点】

- ◆英語選択入試の実施  
第1回入試において、社会・理科と英語A・英語Bの選択可  
英語A(英検2級程度の記述問題) 英語B(英作文)
- ◆第2回入試定員 男女40名

**【中学第1回（メッセ）入試注意事項】**

- ◆会場には時計がありませんので、時計を持ってきて下さい。
- ◆トイレはたくさん準備してあります。
- ◆鉛筆でもシャープペンでもOKです。
- ◆休み時間には気分転換のために飲食しても構いません。
- ◆保健室も用意してあります。
- ◆保護者控え室もあります。
- ◆退場は受験番号順になります。全体の退場は約35分ぐらいです。  
お子様と待ち合わせ場所を決めておいて下さい。